江戸時代の利根川――その呼称と物流について

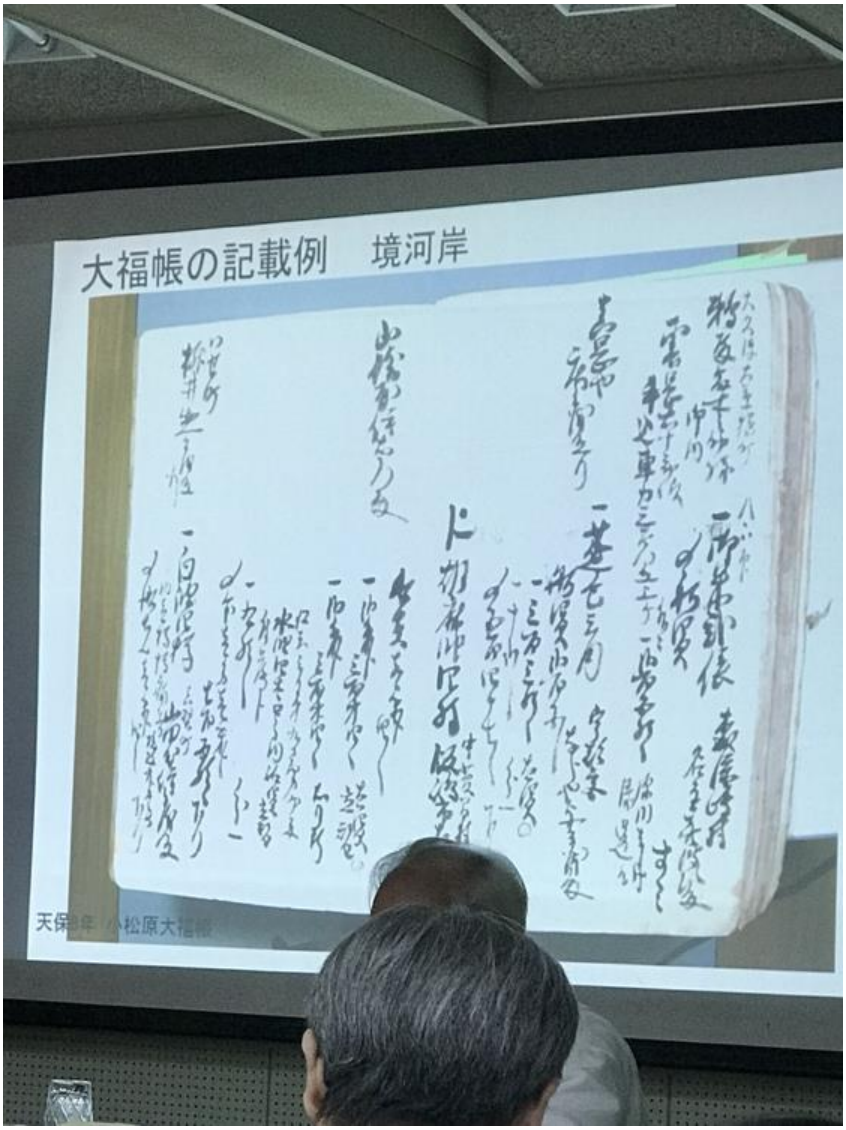
2018-8-5 印西市発、まち育て塾
寺子屋吉岡夏季特別講座
江戸時代の利根川――その呼称と物流について――
利根川文化研究会　原　淳二さん

今回は、利根川文化研究会と共催で、印西市の中央公民館で行われました。会場は、開始30分前にも満席（70席）になり、スタッフは臨時席を設けるほどの盛況でした。

「下総國」（国立公文書館蔵）

原淳二先生講演会記念（平成三十年八月五日）
「江戸時代の利根川　その呼称や物流のあり方」
主催　木下まち育て塾・共催　利根川文化研究会
協働　印西市教育委員会
於：印西市立中央公民館

2 利根川の呼称 2
高浜
小川
東利根川
布施
木下
江戸川 西利根川
加村
松戸
市川


大福帳の記載例　境河岸
天保8年 小松原大福帳

中継河岸の機能
1 境河岸の場合(1)
東北・下野
地方出荷地
氏家河岸
等
鬼怒川下り
絹や紅花、茶やたばこ等
江戸深川
大工町
境屋庄三郎
境河岸
上山川
河岸など
六か宿

中央公民館から利根川をのぞむ

＜講演概要＞メモ・レポ

1、　江戸時代の絵図から、当時の中・下利根川の流れをイメージ

現在の利根川の流れは、明治 30 年以降、度々行われてきた大規模改修工事の結果であり、江戸時代の中・下利根川の姿とは大きく変わっている。

江戸時代の川筋はいくつにも別れ、多くの付寄洲があり、そして、洪水の度ごとにその度合いはひどくなっていった。

とくに、冬場の渇水期には、中利根川では澪筋が維持できず、舟で遡航することが困難になっていた。

また、川筋も大きく異なり、中利根川では、中峠村・小堀河岸、布佐・布川間に大きな狭窄部があり、水量調整のネックとなり、また、下利根川では遅くとも 19 世紀初めまで横利根川・北利根川が利根川とされていた。

江戸時代の川の流れをイメージすることは、利根川を学んでいく上でのスタートになる。

2、　「常陸川」とは、どこをさす川か？

利根川は、江戸時代のはじめころに大きく付け替えられた。
現在のように銚子方面に流れを変えたことはよく知られたことですが、(利根川東遷)
少なくとも、戦国期、鬼怒川や小貝川の流れを集めて流れていた河川はなんと呼ばれていたのか？。
これを「常陸川」と書く研究者が多いのですが、常陸国と下総国との国境河川でもない川を「常陸川」というには疑問がある。
実際のところ、戦国期、中・下利根川を「常陸川」と記した文献は見たことがない。
この「常陸川」という呼称が用いられるようになった理由は何か？調べてみたが、、、、、。

3、 利根川の物流では、その運賃はどのように決済されていたか
現在、私たちは荷物を送りたいときは、近くの郵便局やコンビニに持ち込み、料金を支払って済ませます。
物流に触れることが極めて容易な時代、世の中です。
しかし、江戸時代には、日通便や佐川急便といった全国を網羅する物流業者は存在しません。（もちろん、京屋などの飛脚業者はいましたが)。
江戸時代の物流では、様々な業者からなる船運や駄送が組み合わされ、様々な方面へのルートが形成されていました。
そこには、出荷者が近くの問屋に荷物を持ち込み、
問屋がその荷物を物流ルートにのせ、
そこで、出荷者は代金をどのように支払ったのでしょうか？
境河岸の小松原家文書、布施河岸の後藤家文書の史料を読み解いて、解明します。
（河岸問屋の金融機能について）
ルート上には様々な業者が介在する上に、個々の経路の代金も大体決まっているとはいえ、場合によっては、天候の変化などで遅延したり、途中にある特定の問屋が料金を立て替えたり、また取り立てたりの役割、機能を有する等
それによってはじめて物流が成り立っていました。
そこでは、信用が重要となりますことから、庶民には、物流に容易に参加できない理由となっていました。

三　運賃の支払い方

史料5

史料6

覚

史料7（パワポ No.30）　帳簿の記載例（境河岸）

〆船賃　すミ

外ニ

一　弐百五十文　関川はしけ

宇都宮
ならや与兵衛殿

山崎屋伊右衛門殿

水油四太口之内船賃立替

いせ町
桂井数兵衛殿行

（『境町史』）

史料8（パワポ№32）**送り状1**（**信河岸**）

会津屋文之助殿行

一　切粉六箱　（**船賃**四千、八十三文下り）
　　浦北文貸請
　　来より売々より御請取之事

右之通り大急荷物二付、早速御積送り可被下候、以上

　　寅十一月三日　　横川岸
　　小松原五右衛門殿
　　本材木町
　　寺本四郎左衛門殿行　　（信州　小松原家）

史料9（パワポ№33）**送り状2**（**布施河岸**）

送り状之事

（西三板）　　（原平付　藤次郎船）

右之通り無違り被送、なお相違無可被成候、**船賃之**
儀者相済候間、船賃之儀者後日にて御払可被成候
以上

　　子七月廿六日　　**宮本平右衛門**

小金本生寺新旅宿
安藤志兵衛殿
浅井五郎三郎殿行

（**布施河岸**）　　佐藤源右衛門殿

史料10（パワポ№34）**送り状3**（**信河岸**）

送り状之事

一　金義丈丸　　巻次郎船
　　九百月
　　〃　秋田代船巻長日
　　江戸東岡部藩藩伊兵衛殿江行
　　大田原より桑名迄之荷賃
　　請取四百文目船賃ハ
　　寅ノ十月七日　　太田原　伊勢屋
　　次十郎
　　〃　青梅川　御問屋様
　　〃　阿久津川沖　岩槻屋吉六様
　　〃　久保田川岸　吉田様兵衛様
　　荒川岸　小松原五右衛門様
　　青木兵蔵殿

（信州　小松原家）

史料11（**信河岸**）**荷物差**（**船賃**）**送り状之事**

送り状之事

小生手三郎殿
幅や清右衛門殿

左記　和歌舟

一　宝　　五箱
　　大　　五箱
　　一　舟ちん　金三分也
　　外六百六十文　馬賃ノ方
　　〃　金二分弐百六十文
　　沈米也
　　内　　**蔵かし**
　　残り金次分弐朱と弐百六十文
　　荷賃方へ御請取可被下候

右之通請送り申候間、必御請取可被成候、以上

　　子八月廿九日　　**竜崎弥右衛門**　印
　　佐藤源右衛門殿　　（**信州**　佐藤家）

史料12　**信河岸での運賃の立替払い**
（**久保田河岸問屋**）**への指示**

覚

一　金弐両弐朱ト　二百二拾文
　　松村屋御仕家分
　　かし賃日付事
　　三月朔日付送り

右之通運賃分内二受取申候、以上

　　四月十四日　　久保田河岸
　　小松原五右衛門殿　　**四村伝十郎**　印
　　（**信州**　小松原家）

史料13（パワポ№34）**布施河岸での船賃の立替払い**
（**十九右衛門**）**への指示**

覚

一　六百文　　十九右衛門より布施まで
　　右之通請ニ受取申候　　**船し分賃共**

　　子四月廿三日　　十九右
　　河内屋金兵衛
　　上　　（**信州**　佐藤家）

史料14　**信河岸問屋の運賃請求**
（**新下四郎を通じての最終請求**）

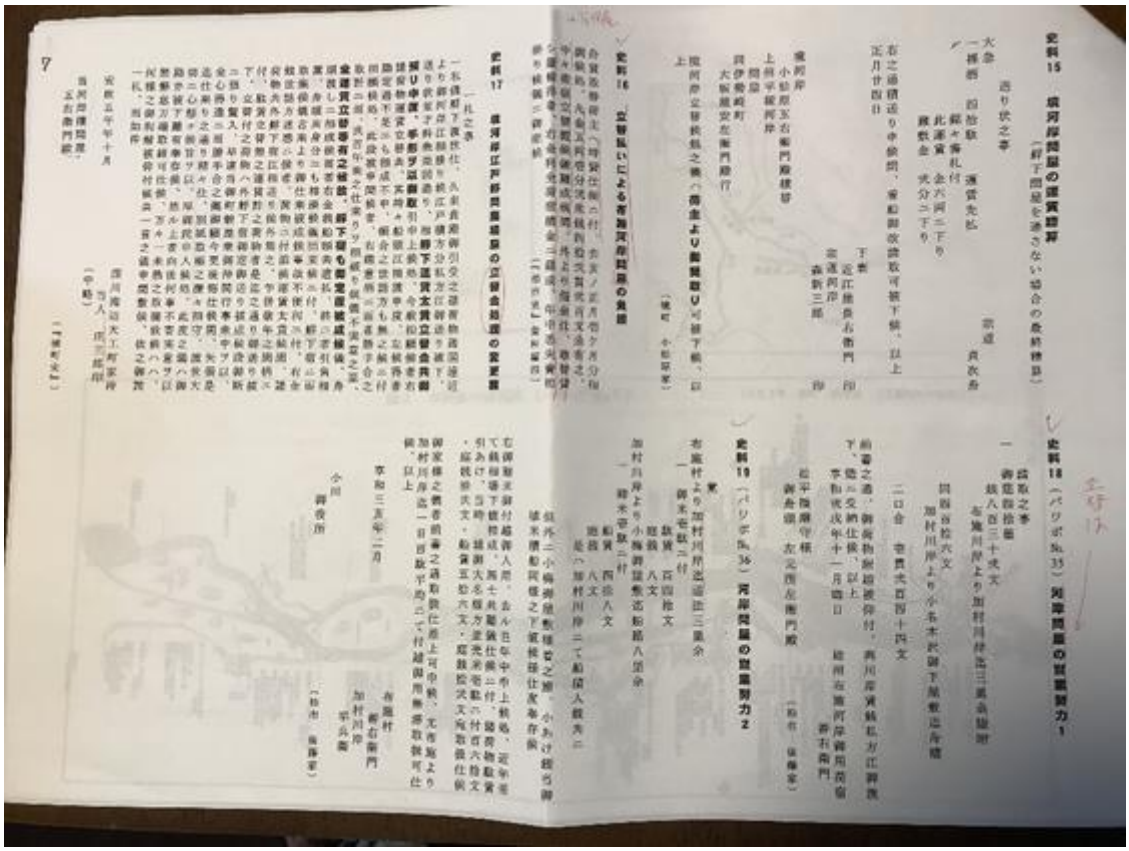
信河岸定四郎舟

一　荷　　**静ヶ谷村**
　　吉五郎殿

船賃金弐両弐朱也
一金弐両弐分弐朱ト三百六十文　立かへ分ニ而
〃金弐両二分弐朱ト三百六拾文
（**金弐両二分三朱**）
（**金壱拾五**）
金弐両二分三朱　八百六十文下り
外ニ五百文船賃立かへ
外壱貫四百文　**御木屋私分**

右之通既応**関**御請取、**諸**掛を御受取可被下候、以上

　　寅十月廿日　　小松原五右衛門　印
　　信河岸定四郎殿
　　通用申上候、**諸掛り**御請**三倍**請**三倍**請**二倍**、**布施**
　　御請取可被下候、以上　　（**信州**　小松原家）



この記事に

1

- シェア
- ツイート
- ブックマーク
-
- >
- 生活と文化
- >
- 文化活動
- >
- その他文化活動
- トリストラム・シャンティ
- 下町ロケットゴースト

コメント（5）

-

利根川文化研究会、利根川流域の歴史・文化、民俗、自然などを、自治体領域を超え、河川文化として研究、学習しています。詳細は、ＨＰを見てください。挨拶より

2018/8/6(月) 午前 8:31

返信する

-

寺子屋吉岡まち育て塾、印西市利根川、木下河岸に所在した廻船問屋の吉岡家の蔵を再生し、地域の文化財保存や歴史の発掘、まちづくりなど地域住民の活動団体です。吉岡まちかど博物館です。　会長挨拶より

2018/8/6(月) 午前 8:32

返信する

-

印西市教育委員会、当該事業は地域住民の団体と共同で実施している事業です。印西市、特に木下地区の歴史文化、自然の保全、地域文化振興をその目的活動としております。

2018/8/6(月) 午前 8:33

返信する

-

まちかど博物館には、江戸時代、木下河岸廻船問屋を営んでいた吉岡家の歴史資料や、近代明治期になって、10 年代、当主吉岡七郎は、同郷の出資者を募って、蒸気船運輸事業に参入、民間の個人事業主として蒸気船 3 艘を建造、銚子汽船と協同で中利根川流域の船運事業を築づいた。蒸気船「銚港丸」関連の史料を展示し、解説している。木下駅にも木下河岸や蒸気船のパネルが展示されている。

2018/8/7(火) 午後 0:36

返信する

-

近くの歴史資料センターでは、蒸気船「銚港丸」の模型や木下河岸のジオラマ、木下河岸の歴史を解説している。